

「令和4年度病害虫発生予報第1号」の発表について

○向こう1か月の主要な病害虫の発生予察情報（発生予報）については次のとおりです。

- ・ 野菜類では、たまねぎのべと病の発生が、近畿、中国、四国及び北九州の一部の地域で多くなると予想されています。ほ場を見回り、り病株の抜き取りを実施するとともに、都道府県から発表される発生予察情報等を参考に薬剤防除を的確に実施してください。
- ・ 果樹・茶では、病害虫防除を効率的かつ効果的に実施するため、春期の病害虫の発生を抑制することが重要です。感染落葉やり病部を除去し、園外に持ち出すなど、適切に処理してください。また、都道府県から発表される発生予察情報を参考に、薬剤防除を実施してください。

この他、いちごのアザミウマ類等、地域によっては多くなると予想されている病害虫があるので注意してください。

国の発生予察情報について

国は都道府県の協力の下、植物防疫法（昭和25年法律第151号）に基づき、有害動植物の防除を適時で経済的なものにするため、気象、農作物の生育状況、有害動植物の発生調査の結果等を分析し、有害動植物の発生予察及び防除対策に係る情報（発生予察情報）を提供しています。本予報は、都道府県が提供する発生予察情報を取りまとめた情報になりますので、地域における情報の詳細は、都道府県病害虫防除所のホームページ等を参照してください。

国の病害虫発生予察情報

参照URL:https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/boujyo/120104_yoho.html

都道府県病害虫防除所

参照URL:https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/boujyo/120105_boujoshou.html

気象

気象庁の向こう1か月の予報（4月7日付け）では、気温は期間のはじめに北・東・西日本でかなり高いと予想されています。また、降水量は沖縄・奄美では、平年並か多くなると予想されています。

気象庁ホームページ

参照URL:https://www.jma.go.jp/jp/longfcst/001_00.html（外部リンク）

水稻

・トビウカは、その年の気象条件や飛来量によっては大きな被害を引き起こします。本虫による被害の発生が懸念される地域では、効果の高い育苗箱施用剤による防除の実施についても検討してください。

昨年、いもち病、もみ枯細菌病、ばか苗病等の種子伝染性病害の発生が多かった地域では、特に種子消毒を的確に実施し、健全な苗の育成に努めて下さい。

特に、いもち病では、一部の薬剤において感受性の低下が見られるので、都道府県から発表される発生予察情報等を参考に、効果の高い薬剤を選定し種子消毒を実施してください。

また、塩水選や温湯消毒といった物理的防除を実施する場合には、消毒効果を確実に得られるように、病害虫防除所等が示す手順・方法に沿って適切に実施してください。

・縞葉枯病は、ヒメトビウカによって媒介されるウイルス病であり、経卵伝染するため、本虫を対象とした防除を実施することが重要です。2月から3月にかけての調査では、ヒメトビウカの本ウイルスの保毒虫率が高いことから、3月に茨城県から注意報が発表されています。近年、本圃で本ウイルス病の発生が高まっている地域では、ヒメトビウカに効果の高い育苗箱施用剤による防除の実施についても検討してください。

・スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）は、昨年多発生となった地域では、多くの貝が越冬しているおそれがあります。今春の被害を抑えるため、移植前に取水口・排水口にネットや金網を設置するとともに、水田内の発生が多い場合には石灰窒素の散布の実施を検討してください。

また、移植時は薬剤散布を実施し、移植後は水深を4cm(理想は1cm)以下に維持する浅水管理を実施してください。

なお、スクミリンゴガイは、農機具・機械に付着した泥とともに他のほ場へ拡散することがあります。発生ほ場で使用した後は泥をよく落としてから移動させるよう心がけてください。

農林水産省では、スクミリンゴガイの被害防止対策に関するマニュアルや動画などをホームページに掲載しています。詳しくは以下のURLからご覧ください。

スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）の被害防止対策について

参照URL:<https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/gaicyu/siryoku2/sukumi/sukumi.html>

麦類

・赤かび病は、本病に感染しやすい時期を捉えた防除が重要であり、下表のとおり、麦の種類ごとに防除時期が異なります。昨冬から今春にかけて気温の上昇が大きかった地域では、麦の生育が当初の予測よりも早まります。都道府県の提供する発生予察情報等を参考に、地域ごとの防除適期を確認して的確に防除を実施してください。

なお、防除適期に降雨が続く場合は、降雨の合間に防除を実施してください。

麦の種類	最初の防除を行う生育時期
小麦	開花を始めた時期から開花最盛期まで
二条大麦	穂揃い期の10日後
六条大麦	開花を始めた時期から開花最盛期まで

野菜・花き

野菜・花きで各地の平年値より発生が「多い」・「やや多い」と予想される病害虫及びその地域

作物名	病害虫名	発生が「多い」と予想される地域	発生が「やや多い」と予想される地域
いちご	アザミウマ類	関東、東海、中国、九州	北陸、四国
	アブラムシ類	東海、四国、北九州	南関東、北陸、南九州
	ハダニ類	北陸、東海、四国	南関東、近畿、中国
	うどんこ病	四国	近畿
キャベツ	菌核病	南九州	近畿
きゅうり	アザミウマ類	四国	北九州
	コナジラミ類	四国、北九州	
	うどんこ病	四国	北関東
	べと病	四国	南九州
たまねぎ	アザミウマ類		近畿、四国、北九州
	べと病	近畿、中国、四国、北九州	
トマト	コナジラミ類	東海、四国	関東、北陸、北九州
	葉かび病	北関東、東海、四国	

注) 表中の地域については、必ずしもその全域で発生が見られるものではありません。

たまねぎ

・べと病の発生が、近畿、中国、四国及び北九州の一部の地域で多くなると予想されており、和歌山県、山口県、愛媛県及び佐賀県から注意報が発表されています。ほ場を見回り、り病株の抜き取りを実施するとともに、都道府県から発表される発生予察情報等を参考に薬剤防除を的確に実施してください。

いちご

・アザミウマ類は、関東、東海、中国及び九州の一部の地域で多くなると予想されており、大分県から注意報が発表されています。また、本虫は、気温が高いと増加する傾向があるため、気温が高くなると予想される地域において本虫の発生を認めた場合は注意が必要です。本虫は作物を加害するほか、多くの病原ウイルス病を媒介することが知られています。発生密度が高くなってからでは防除が困難となるため、ほ場の観察をきめ細かく行い、発生初期に防除を実施してください。

なお、本虫は薬剤抵抗性が発達しやすいので、都道府県の発表する発生予察情報等を参考に同一系統薬剤の連用を避けるなど、薬剤を適切に選定してください。また、農薬散布のみならず、天敵による生物的防除等の各種防除手段を組み合わせた防除の実施についても検討してください。

・アブラムシ類は、東海、四国及び北九州の一部の地域で多くなると予想されています。また、本虫は、気温が高いと増加する傾向があるため、気温が高くなると予想される地域において本虫の発生を認めた場合は注意が必要です。本虫は作物を加害するほか、多くの病原ウイルス病を媒介することが知られています。発生密度が高くなってからでは防除が困難となるため、ほ場の観察をきめ細かく行い、発生初期に防除を実施してください。

なお、本虫は薬剤抵抗性が発達しやすいので、都道府県の発表する発生予察情報等を参考に同一系統薬剤の連用を避けるなど、薬剤を適切に選定してください。また、農薬散布のみならず、天敵による生物的防除等の各種防除手段を組み合わせた防除の実施についても検討してください。

・**ハダニ類**は、北陸、東海及び四国の一部の地域で多くなると予想されています。また、本虫は、気温が高いと増加する傾向があるため、気温が高くなると予想される地域において本虫の発生を認めた場合は注意が必要です。本虫は作物を加害するほか、多くの病原ウイルス病を媒介することが知られています。発生密度が高くなってからでは防除が困難となるため、ほ場の観察をきめ細かく行い、発生初期に防除を実施してください。

なお、本虫は薬剤抵抗性が発達しやすいので、都道府県の発表する発生予察情報等を参考に同一系統薬剤の連用を避けるなど、薬剤を適切に選定してください。また、農薬散布のみならず、天敵による生物的防除等の各種防除手段を組み合わせた防除の実施についても検討してください。

■ トマト

・**コナジラミ類**の発生が、東海及び四国の一部の地域で多くなると予想されています。本虫は作物を加害するほか、多くの病原ウイルス病を媒介することが知られています。発生密度が高くなってからでは防除が困難となるため、ほ場の観察をきめ細かく行い、発生初期に防除を実施してください。

なお、本虫は薬剤抵抗性が発達しやすいので、都道府県の発表する発生予察情報等を参考に同一系統薬剤の連用を避けるなど、薬剤を適切に選定してください。また、農薬散布のみならず、天敵による生物的防除等の各種防除手段を組み合わせた防除の実施についても検討してください。

・**葉かび病**の発生が、北関東、東海及び四国の一部の地域で多くなると予想されています。本病は、多湿条件で発生が助長されるので、施設栽培では、換気をする等の湿度管理や伝染源となる病部の早期除去を実施してください。

なお、一部の薬剤に対して耐性菌が発生しているので、薬剤防除を実施する際には、同一系統薬剤の連用を避けるなど薬剤を適切に選定してください。

果樹・茶

果樹・茶で各地の平年値より発生が「多い」・「やや多い」と予想される病害虫及びその地域

作物名	病害虫名	発生が「多い」と予想される地域	発生が「やや多い」と予想される地域
かんきつ	ハダニ類	北九州	東海、南九州、沖縄
	かいよう病	四国、沖縄	北九州
	そうか病	東海	沖縄
茶	カンザワハダニ	南九州	南関東、東海、近畿
果樹全般	果樹カメムシ類	近畿	東海、中国、四国

注) 表中の地域については、必ずしもその全域で発生が見られるものではありません。

かんきつ

・**ハダニ類**は、北九州の一部の地域で多くなると予想されています。また、本虫は、気温が高いと増加する傾向があるため、気温が高くなると予想される地域において本虫の発生を認めた場合は注意が必要です。園内を注意深く観察し、発生状況に応じて防除を実施してください。

なお、本虫は薬剤抵抗性が発達しやすいので、都道府県の発表する発生予察情報等を参考に同一系統薬剤の連用を避けるなど、薬剤を適切に選定してください。また、農薬散布のみならず、天敵による生物的防除等の各種防除手段を組み合わせた防除の実施についても検討してください。

・**かいよう病**の発生が、四国及び沖縄の一部の地域で多くなると予想されています。樹上の葉や枝に残った越冬病斑、果樹園内に取り残されたり病落葉、り病したせん定枝等が一次伝染源となりますので、病斑部の削り取り、り病落葉やり病枝の除去が完了していない園地では速やかに実施してください。

茶

・**カンザワハダニ**は、南九州の一部の地域で多くなると予想されています。また、本虫は、気温が高いと増加する傾向があるため、気温が高くなると予想される地域において本虫の発生を認めた場合は注意が必要です。園内を注意深く観察し、発生状況に応じて防除を実施してください。

なお、本虫は地域及び薬剤の種類により効果が異なることが知られていますので、都道府県から発表される発生予察情報等を参考に薬剤の選定をするとともに、収穫期を迎える園地では、薬剤の使用前日数等に留意して防除を実施するか、一番茶摘採後の防除を実施してください。

果樹全般

・**果樹カメムシ類**の発生が、近畿の一部の地域で多くなると予想されています。山林等の越冬場所から離脱した成虫が春の気温の上昇とともに餌を求めて移動し、果樹全般を加害します。本虫の飛来状況は地域や園地により異なるので、都道府県の発表する発生予察情報等を参考にしつつ、園内の観察をきめ細かく行い、飛来が認められた場合は、飛来初期から防除を実施してください。

都道府県が発表した警報、注意報及び特殊報

令和4年3月9日以降、都道府県が発表している警報、注意報及び特殊報は以下のとおりです。

警報

発表はありません。

注)重要な病害虫が大発生することが予測され、かつ、早急に防除措置を講ずる必要がある場合に発表します。

注意報

発表月日	都道府県	対象作物	対象病害虫
3月15日	山口県	たまねぎ	タマネギべと病
3月15日	佐賀県	たまねぎ	タマネギべと病
3月18日	愛媛県	たまねぎ	タマネギべと病
3月22日	和歌山県	たまねぎ	タマネギべと病
3月23日	茨城県	水稻	イネ縞葉枯病(ヒメトビウンカ)
3月24日	大分県	いちご	アザミウマ類
4月4日	岩手県	りんご	リンゴハダニ
4月4日	岩手県	りんご	リンゴ黒星病

注)警報を発表するほどではありませんが、重要な病害虫が多発することが予測され、かつ、早めに防除措置を講じる必要がある場合に発表します。

特殊報

発表月日	都道府県	対象作物	対象病害虫
3月16日	鹿児島県	トマト	トマトキバガ
3月23日	熊本県	ホオズキ	タバコミノハムシ
3月24日	大分県	トマト	トマトキバガ
3月29日	福岡県	トマト	トマトキバガ
4月5日	長崎県	ばれいしょ	トマトキバガ
4月7日	神奈川県	さつまいも	サツマイモ炭腐病

注)各都道府県において、新たな病害虫を発見した場合及び重要な病害虫の発消長に特異な現象が認められた場合に発表します。

病害虫の生態等の生物学的情報や防除に関する情報の詳細については、各都道府県の病害虫防除所のホームページ等を参照してください。

サツマイモ基腐病の防除対策について

本病は、平成30年度に宮崎県、鹿児島県及び沖縄県から、さつまいもの地際部から茎が枯れ、いもが腐る茎・根腐敗症状の原因菌の一つとして特殊報が発表され、これまでに、25都道府県において、本病の発生が確認され、特殊報が発表されました。

本病は感染した種いもや苗がほ場内に持ち込まれることにより発生のまん延の可能性が高まるため、次期作には、健全種いもの確保、苗床の消毒等を実施することにより、健全な種苗を育成してください。また、本病のまん延防止には、り病株の早期発見は重要であることから、都道府県が発表する発生情報等を参考にしながら、ほ場観察を行ってください。なお、疑わしい症状を見つけた場合には、都道府県病害虫防除所等まで御連絡をお願いします。

サツマイモ基腐病の発生生態と防除対策（令和3年度版）

参照URL:https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/151859.html

用語解説

（地域）

北海道：北海道

東北：青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県

北東北：青森県、岩手県、秋田県

南東北：宮城県、山形県、福島県

関東：茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県

北関東：茨城県、栃木県、群馬県

南関東：埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県

甲信：山梨県、長野県

北陸：新潟県、富山県、石川県、福井県

東海：岐阜県、静岡県、愛知県、三重県

近畿：滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県

中国：鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県

四国：徳島県、香川県、愛媛県、高知県

九州：福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県

北九州：福岡県、佐賀県、長崎県、大分県

南九州：熊本県、宮崎県、鹿児島県

沖縄：沖縄県

（発生量（程度））

多い（高い）：やや多いの外側10%の度数の入る幅

やや多い（やや高い）：平年並の外側20%の度数の入る幅

平年並：平年値を中心として40%の度数の入る幅

やや少ない（やや低い）：平年並の外側20%の度数の入る幅

少ない（低い）：やや少ないの外側10%の度数の入る幅

（平年値は過去10年間の平均）

(参考) 今後の発表予定日

第2号:5月11日(水曜日)

第3号:6月8日(水曜日)

第4号:7月6日(水曜日)

第5号:7月20日(水曜日)

第5号:8月10日(水曜日)

第7号:9月7日(水曜日)

第8号:10月12日(水曜日)

第9号:11月9日(水曜日)

第10号:令和5年3月8日(水曜日)

【お問合せ先】

消費・安全局植物防疫課

担当者：岡田、麻野、吉田

代表：03-3502-8111（内線4562）

ダイヤルイン：03-3502-3382